

(様式第2号)

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

提出区分	実績	整理番号	10	課題区分	C	令和6年3月12日
横断的な課題	地域ブランドを活かしたゆたかな暮らしと移住への取組					
地域重点政策	地域ブランドを活かしたゆたかな暮らしと移住への取組					松本地域振興局
実施機関	松本農業農村支援センター			担当課	所属	技術経営普及課
事業名	スマート農業推進事業				電話	0263-40-1947
					E-mail	matsumoto-nogvo@pref.nagano.lg.jp
事業概要等	目的 (目指す姿)	農業の担い手不足・高齢化に対応するため、農地を集積した担い手が、「スマート農業技術」を駆使して、省力化や生産性向上を図り、農地と産業を維持する。				
	現状と課題	果樹園では夏場の草刈りが必須であり、5～10月は2～3週間毎に作業を行っている。通常は乗用草刈機を用いるが、果樹園は樹木や支柱など障害物が多いため、熟練した経営者・後継者・従業員が運転することが多い。栽培管理に注力すべき時期に草刈りをせざるを得ない場合も多く、労務管理上も課題となっている。 ロボット草刈機は、熟練作業者を草刈りから解放し栽培管理に注力できると期待される。このメリットに着目した県内の一部果樹産地では、草生栽培園において導入する経営体が増えつつある。松本地域では導入事例がほとんどないことから、啓発と実用性評価を行う必要がある。				
	内容 (変更後の内容)	●自動運転草刈り機実演会の開催(8月7日) 現地の草生栽培果樹園において、3社のメーカーの自動運転草刈機の機能等を同時に比較し、果樹農家等の経営に合った草刈り機の選定の参考とする実演会を開催した。 【協力機関】ホンダパワープロダクツジャパン、和同産業株式会社、株式会社麻場 【参集者】管内果樹生産者、アグリマスターセミナー果樹コース受講者、農業協同組合技術指導者、農業技術課 等 【内容】草刈状態を遠観で調査、各機の仕様を比較し、実用性を評価検討した。 調査結果等をもとにスマート農業推進の資料を作成した。 ●スマート農業推進検討会(1月23日、2月22日) 実演会で得た実用性等の評価をもとに、スマート農業推進検討会を開催し、自動運転草刈り機の導入時の留意点や、経営方針に合ったスマート農業機器の検討に係る普及啓発を行った。				
	事業期間	令和5年8月		～	令和6年2月	
事業費等	事業を構成する細事業名等	実施内容		実績額	備考	
	自動運転草刈り機実演会事業	現地実演会により開発が進んでいる自動運転草刈り機の実用性を検討し、導入への意識啓発を図る。		3,000	ほ場提供の園主への使用料(実演の機器セッティングはメーカー負担)	
	合計			3,000		
指標及び達成状況	成果指標			目標値	成果	達成状況
	実演会開催回数及び参加人数			1回、20人	1回、27人	● 達成
	スマート農業推進検討会開催回数及び参加人数			2回、20人	2回、73人	○ 一部達成
						○ 未達成
事業実績・成果	1 自動運転草刈り機実演会(8月7日) 現地の草生栽培果樹園において、メーカー3社の協力を得て、自動運転草刈機を展示・実演した。 各機種の特徴について説明を聞き、参加者の労力軽減対策の参考にいただいた。 参加者からは、機能性能や価格の面について意見、提案があった。 実演会で得た実用性等の評価をまとめ、今後のスマート農業推進の資料とした。					
	2 スマート農業推進検討会(1月23日: 中信地区果樹技術員会議、2月22日: 果樹研究会中信支部総会) 実演会の内容等、自動運転草刈り機の情報を提供。 自動運転草刈り機の導入に当たっての留意点について参加者への啓発を実施した。					
	3 成果 複数の自動運転草刈り機の特徴を比較検討し、労力軽減対策の一環として広く提案することができた。 メーカーに対して機械の改善点等を提案することができた。					
今後の方向性	スマート農業機器は高額との意見が多く、速やかに導入する方向となっていないため、最新の情報を農家、農協へ提供し、労力軽減対策の啓発を行っていく。					